



DxO Optics Pro v5.1 リリースノート (build 6813)

Windows:

新規サポートカメラ機種

- Canon EOS 1Ds Mark III、Canon EOS Digital Kiss 2X、Nikon D60

v5.0.4と比較しての、新機能

- 個々のサイドカーファイルのインポート/エクスポート機能により、Windows 搭載の他のコンピュータとのデータ共有が可能になり、より柔軟なアーカイブを実現。
- [元に戻す] / [やり直し] コマンドの追加。
- ヒストグラムパレット上の、ハイライトとシャドウのクリッピング機能追加
- (他社のソフトウェアを使って) ICC プロファイル作成するために、補正されていない画像をエクスポートすることが可能。

v5.0.4と比較しての主な改善点

- プロジェクトウインドウ
 - プロジェクト内の画像ファイル検索のためのリンクの復旧が可能。
 - Vistaのスターレーティングシステムとの互換性実現。
 - 画像の [ソート] と [フィルタ] 機能の追加。
- [選択] タブ
 - ファイルエクスプローラとファイル内容ウインドウの [リフレッシュ] が可能。(F5 キー)
 - システムファイルの参照スピードの向上。
 - 画像の、ドラッグ&ドロップの反応性の向上。
 - Adobe® Lightroom®のコレクションへのアクセスの改善。(Lightroom v1.xはサポートされていますが、Lightroom v2 ベータ版はサポートされていません。)
 - より多くの画像情報(カメラ機種、レンズ、一部のExif情報)を表示。
- [補正] タブ
 - ユーザーの経験を反映し、プリセットパレットのデザインを刷新。
 - 補正後画像の表示スピードの向上。
 - 補正前の画像表示に、モニターのICCプロファイルが反映。
 - シャープネスに関して、補正前/補正後の画像の表示の一貫性の改善。
- [処理] タブ
 - メモリーリークの解決により、一度のバッチでの処理画像数の向上。
 - ポートレート画像の物理的回転が可能。(以前は、Exif情報に回転情報を修正。)
 - 出力画像、バーチャルコピー、RAW/RGBファイル間の名称のダブりの解決。

v5.1とv5.0.4と比較して、エルゴノミクスの視点からの改善点

- タブ間の移動のショートカットの変更：
 - タブ間の移動に(ファンクションキーと併用して)[シフトキー]が必要。
 - [シフトキー] + F5 キー : [選択] タブ
 - [シフトキー] + F6 キー : [補正] タブ
 - [シフトキー] + F7 キー : [処理] タブ
 - [シフトキー] + F8 キー : [確認] タブ

既知の問題点

- Adobe Photoshop 用プラグインのリリース延期。
- Dx0 Optics Pro は XP-64 ビット と Vista-64 ビットはサポートしていません。
- インチ単位での入力不可。（〔ジオメトリ〕パレット内で焦点距離入力時）
- v4 ではあったスライドショーが v5 ではなくなった。これは XP と Vista のスライドショー機能とダブっていると判断したため。
- ビデオカードドライバーの種類により、スクリーン表示の問題が発生。
- Nikon D200 の Image Overlay モードはサポートされておらずホワイトバランスが正しく表示されない。
- バッチ処理で一度はエラーとしてはねられた画像が、二度目の処理では問題なく実行される。
- Fuji S5 の DNG 出力画像が、過度の露出。
- 画像の回転情報が曖昧（EXIF 情報と回転された画像情報とで矛盾がある）である場合、ディストーション補正は無効の設定にもかかわらず、プレビューウィンドウの表示画像にはディストーション補正が適用されている。
- 〔処理〕タブ上で、バッチの最後の画像の処理が終わった後、プログレスバーが表示されたままになっていることがある。
- Windows 搭載のコンピュータで作ったプリセットが Macintosh のコンピュータで使用不可能。またその逆も不可能。

以下にあげた問題はベータテスターの方々からレポートされたものですが、再現の非常に難しいか、不可能なものです。問題の起きる状況を特定できなかつたり、環境に関する情報が不足しているため、リリース後もこれらの問題は残りますが、現在も原因を追究し解決するよう努力しております。

- 画像の読み込み中にエラーが起きることがある。
- キーストーン補正機能を使っている時に、まれに表示の問題が発生。
- 〔確認〕タブで作業中、ソフトウェアがフリーズすることがある。
- 何時間か継続して使用した場合、ソフトウェアが特別の理由なくクラッシュすることがある。
- 大幅にズームする時、ソフトウェアがクラッシュすることがある。

Macintosh :

新規サポートカメラ機種

- Canon EOS 1Ds Mark III、Canon EOS Digital Kiss 2X、Canon 40D、Samsung GX20、Nikon D3、Nikon D60

V4.5.1と比較しての、新機能

Dx0 Optics Pro v5 は全く新しく設計されたソフトウェアで、前のバージョンに対して大幅に改善されています。

- RAW 現像エンジンに、新デモザイク処理アルゴリズム搭載。
 - ディテールの大幅な向上。
 - カメラノイズの大幅な削減。
 - 画像の最適なコントラストと彩度の再現。
- ダスト/汚れ除去ツールを、一度に何枚にでも適用可能。
- ユーザーインターフェースの刷新により、より写真家のニーズに沿ったワークフローを実現。新バージョンでは、様々なツールが4つのパレット（ライト、カラー、ジオメトリ、ディテール）に分類。

他社ソフトウェアとの互換性

- Adobe Photoshop 用プラグインのリリース延期。
- Adobe Lightroom v1.x はサポートされていますが、v2 ベータ版は非サポート。

既知の問題点

- 全般：
 - 個々のサイドカーファイルのインポート／エクスポート機能の使用不可。
 - Windows 搭載のコンピュータで作ったプリセットと Macintosh のコンピュータで作ったプリセットの相互交換使用不可能
 - また DxO Optics Pro v4 Macintosh 版で作成したプリセットのインポートも使用不可。
 - インチ単位での入力不可。（〔ジオメトリ〕パレット内で焦点距離入力時）
 - 〔画像を ICC プロファイルを作成するためにエクスポートする〕コマンドが使用不可。
 - マニュアルライセンス認証で起動された場合、ライセンス認証の一時保留不可。
 - Nikon D200 の Image Overlay モードはサポートされておらずホワイトバランスが正しく表示されない。
- 〔選択〕タブ：
 - v4 で作成したプロジェクトのインポート不可。
 - プロジェクトウインドウに、フォルダの内容物を一度にインポート不可。プロジェクトを開き、画像を選択して、ドラッグ&ドロップしてインポートしてください。
 - ファイル内容の表示モード（リスト、コラム、アイコン）を変更すると、画像の選択が無効になることがある。
- 〔補正〕タブ：
 - GPU 高速処理が有効になっている時、アーチファクトが補正前の画像に現れることがある。
 - ズームフィットモードで使用時、補正前／補正後の画像が画面の左に寄って表示されることがある。
 - 〔ズーム／移動〕パレットで作業中、ソフトウェアの反応の問題が起きることがある。
- 〔処理〕タブ：
 - バッチに後から手動で追加した画像が処理されない場合がある。
- 〔確認〕タブ：
 - v4 ではあったスライドショーが v5 ではなくなった。これは OS X の機能（クイックルックとプレビュー）とダブっていると判断したため。
- リポートされたが、再現不可能なバグ：
 - 以前に作成したプロジェクトを開く時、ソフトウェアがクラッシュすることがある。
 - スタックに画像を追加する時、ソフトウェアがクラッシュすることがある。
 - 出力先ディレクトリを選択する時にクラッシュすることがある。